

「日本出身です」と答えると、「東京か？」と返される。中学校から大学までずっと東京の学校に通っていたこともあり、自分がまるで東京に住んでいるような感覚に陥るが、「いや、東京に近い埼玉というところだ」と答えると、たいてい「初めて聞いた」と返ってくる。しかし、驚いたことに日本に興味を持つ人々に出くわすと、少し違った反応であった。埼玉出身であると伝えると、「アニメで出てくる」と返ってきた。クレヨンしんちゃんやワンパンマンといった日本のサブカルチャーは世界にも浸透し、多大な影響力を保持していたのだ。歴史を勉強している私にとっては、埼玉を現代のサブカルチャーよりも歴史や文化といった面から見て、多くの人に知ってほしいと思うが、若者の間では特に過去の遺産よりもインターネットなどを通じたマスメディアにおける情報の方が関心の的であるようだ。

歴史教育の観点からこのことを見てみると、その原因が分かった。イギリスではイギリスや主要な大国の歴史を教えるのみで、日本のように世界の歴史を広く学ぶわけではないようだ。そのため、歴史を専攻としない限り他国の歴史、ましてヨーロッパから程遠く小さな島国の日本の歴史は学ばれる機会がない。多くの人々は、情報を得るのに最も身近な手段であるマスメディアを通してしか日本という国を知りえないのだろう。こんなにも独特で他にはない歴史をぜひとも世界史の中に位置づけたいと感じた。そうすれば日本の歴史の認知度が高まり、埼玉県であれば小江戸川越の関心も高まるのではないだろうか。

その歴史に関してイギリスで感じたことは、史跡などの歴史保存が発展的であることだ。**National Trust**などの団体を中心に史跡の発掘調査が行われ、各地で壊すことなくその現場での保存をできる限り可能にしようとしている。イギリスは自然災害が少ないから可能なのかもしれないが、日本もその現場での史跡保存を促進させるべきだ。また、文化の面においても学ぶところがあった。イギリス人にイギリスの文化にはどういったものがあるか尋ねたところ、「分からない」と返答されることが多かった。どうやら長い歴史の中で形成された多文化社会の出現によって「イギリス」という概念が不明瞭になっているようだ。今現在、日本文化が若者にあまり受け継がれることなく、認知度が下がってきているのに加え、外国からの移民の増加などによるグローバル化の進行で、より一層日本文化が消えてしまいそうな状態である中で、いかに日本文化を存続させていくかが課題である。そこにおいて、地方ごとの歴史や文化のアピールが重要だと考える。

親善大使としての役割を与えていただかなければ、埼玉県に関してこのように深くまで考えることがなかったため、自分の住む場所がどのような場所かを再確認できたのと同時に、埼玉県の観光業促進に貢献できたことを光栄に思う。これを機に、埼玉県の歴

史や文化に関して学び、日本人も含めより多くの人々に埼玉県を知ってもらえるようにその魅力を伝えていきたい。